

平成25年鞍手町議会第2回定例会会議録（第2号）						
	平成25年 3月11日					
招集場所	鞍手町役場議事堂					
開閉会日時 及び宣告	開 会 開 議				議 長	
	平成25年 3月11日 午後1時00分				川野高實	
	閉 会 開 議				議 長	
	平成25年 3月11日 午後3時21分				川野高實	
出席及び 欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠 の別	議席 番号	氏 名	出欠 の別
	1	熊井照明	出 欠	11	宇田川 亮	出 欠
	2	須山 由紀生	出 欠	12	岡崎 邦博	出 欠
	3	星 正 彦	出 欠	13	栗田 幸則	出 欠
	4	—	出 欠			
	5	田中 二三輝	出 欠			
	6	原 哲 也	出 欠			
	7	川野高實	出 欠			
	8	須藤 敏夫	出 欠			
	9	久保田正之	出 欠			
出席 12人 欠席 0人 欠員 1人	10	武谷保正	出 欠			
会議録署名 議員	1	熊井照明		2	須山 由紀生	

職 出 務 席	議会事務 局長	渡 辺 智 文	出 欠	議会事務 局長補佐	武 谷 朋 視	出 欠
地方自治法 第121条 により説明 出席者の 職氏名	町 長	徳 島 眞 次	出 欠	会計課長	久 保 田 隆 一	出 欠
	副町長	本 松 吉 憲	出 欠	建設課長	森 茂 樹	出 欠
	教育長	山 本 喜久男	出 欠	企画財政 課 長	三 戸 公 則	出 欠
	総務課長	白 石 秀 美	出 欠	上下水道 課 長	中 岡 和 之	出 欠
	福祉人権 課 長	鯨 坂 健 二	出 欠	病院事務 局 長	中 野 眞 路	出 欠
	税務住民 課 長	藤 原 光 徳	出 欠	教育課長	筒 井 英 和	出 欠
	農政環境課長 兼農業委員会 事務局 長	篠 原 哲 哉	出 欠	保険健康 課 長	長 友 浩 一	出 欠
議 事 日 程		別 紙 の と お り				
付 議 事 件		別 紙 の と お り				
会 議 経 過		別 紙 の と お り				

平成25年第2回鞍手町議会定例会議事日程

3月11日 午後1時開議

第2号

日程第1 一般質問

一 般 質 問 通 告 一 覧 表

平成 2 5 年第 2 回定例会

No. 1

質問者	質 問 事 項 及 び 質 問 要 旨	答弁指定者
11 番 宇田川 亮	1. 住宅リフォーム助成制度について (1) 近隣自治体で実施されていることを把握しているのか (2) 町民にも、町内業者にも、町の税収と施策にも効果のある制度を早急に実施すべきでは 2. TPP交渉参加について (1) 前町長も反対されてきた、この問題について町長の考えは	町 長 町 長
1 番 熊井 照明	1. 国民健康保険被保険者証の個人カード化について (1) 被保険者証の個人カード化に対する取り組み経緯は (2) どの程度の費用がかかるのか (3) 今後の方向性と実施時期の見通しは 2. 納税機会の拡大検討について (1) コンビニ収納導入についての検討進捗状況は 3. 高齢者福祉対策について (1) 高齢者福祉の増進を図るため、はり・きゅう施術費補助券を交付する考えは	町 長 町 長 町 長
5 番 田中二三輝	1. 町施設における防火設備について (1) 小中高および保育所の火災訓練の実施状況は (2) 教育施設以外の町が管理している施設における火災訓練の実施状況は (3) 火災にあった室木小学校は校舎をそのまま利用しているが、火災に伴う有害物質や強度等の安全確認は (4) 第 4 次行財政改革プランで学校関係の用務員を解雇したことにより初期消火ができなかった。このことを重く受け止め今後の対策は	町 長 教育長
12 番 岡崎 邦博	1. 新中学校建設にかかる事項について (1) 当初、専門学校跡地に建設すれば、建設費用は 1 2 億から 1 3 億で済むとの説明だったが、2 5 年度予算案でそれを大幅に上回る見通しとなった。その要因と建設費の総額は (2) 専門学校買収費、校舎改修費、体育館、武道館、プール新築費、野球場、運動場整備費、下水道工事費などそれぞれの工事費用とその財源の内訳は (3) 2 5 年度中学校新入生のうち、南中学校校区から北中学校へ入学する生徒数は。また室木、西川、新延各小学校の在学学生で、昨年から転校したか、または転校を予定している児童はいるか (4) 改めて尋ねるが、専門学校跡地に新中学校を建設するメリットは何か	町 長 教育長
2 番 須山由紀生	1. 障がい児支援について (1) 障がい者に対する基本的な考えは (2) 障がい児保育の状況は (3) 加配保育士及び保育料の状況は	町 長

平成 25 年 3 月 11 日（第 2 日）

開議 13 時 00 分

○議長 川野 高實君

これから本日の会議を開きます。

日程はお手元に配布のとおりです。

これより日程に入ります。

日程第 1 一般質問を行います。

質問はお手元の予定表の順序により行います。

最初に 11 番議員 宇田川亮君の質問を許可します。

宇田川 亮君。

○11 番 宇田川 亮君

通告に従いまして 2 点について質問します。

まず最初の個人住宅のリフォーム助成制度についてです。この質問をする前に、町長に考え方と確認をしたおきたいことがあります。

それは、これまで歴代町長は町内業者を守って、育てていくという考え方に基づいて行政運営をされて来ましたが、この考え方に徳島町長も、そういう意味で取り組んで行かれるのかどうかの確認をまずしたいと思います。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

私も町内業者をしっかり支えていくという考えでいます。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川 亮君。

○11 番 宇田川 亮君

それでは中身に入っていきたいと思います。

この個人住宅のリフォーム助成制度ですが、この制度の創設について、過去何度も一般質問で取り上げさせて頂いています。ですからこの主旨については、前柴田町長もよく理解されていましたが、財政難という理由で制度創設には至っていません。

しかしこの間、近隣自治体の制度創設とその効果も現れてきていますし、何よりも新しく町長になられた徳島町長に、是非この制度の趣旨と効果を理解して頂き、早急に制度創設をして頂きたいと思います。

まずこの制度の中身について簡単に申し上げますと、この制度は個人の住宅を改修しようとする方が町内業者に依頼すれば、町が一定割合の金額を補助するというものです。例えば町が 500 万円の予算を組んで工事費の 10%、上限 10 万円を補助した場合、5 千万円以上の仕事が町内業者に回って来るといった中身のものです。この制度は他の自治体にも受け入れられ、実施する自治体が全国的に広がってきています。

そこでまずお尋ねしますが、近隣自治体での実施状況を把握しているのかどうかについて答弁を求めます。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

まず近隣自治体で実施されているかということですが、近隣市町は小竹町、宮若市、遠賀町、中間市では、手法は違いますが実施はされています。また直方市におきましては、平成25年度から実施をされるということを伺っています。

福岡県内では、60市町村の内25の自治体で実施されているということ把握いたしています。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川 亮君。

○11番 宇田川 亮君

実施されている自治体は把握されているようですが、この制度の効果等についてどのように理解されているのかお尋ねします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

議員が先程おっしゃいましたように、町内もしくは市内の業者に何らかの形で経済効果が生まれているということは聞き及んでおります。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川 亮君。

○11番 宇田川 亮君

例えば小竹町で言えば、商品券のような、地域振興券のような形で100万円の予算を組まれています、昨年度から宮若市では300万円の予算を組まれました。

実際に効果を聞いてみますと300万円の予算で、既に工事自体が4500万円と。ですから15倍の効果があると。

これは工事だけでなく、後からもお尋ねしますが町の施策ですね。一定の経済効果が出れば町に税収効果も出て来ますし、税収増も今後見込まれます。

宮若市のことばかり言って申し訳ないのですが、例えば公共下水道の供用開始は出来ても、お金がないからなかなか繋げないというようなことに対して、この住宅リフォーム助成制度を使って自治体が積極的にそれを進めて行くだとか、いろいろな面で効果が出て来ているわけです。

そういう意味で言えば、この住宅をリフォームすれば個人の住宅も良くなる。そして介護の関係だとか、耐震化だとか、いろいろなことで使えるわけですから、そういう意味では町民生活の防災だとか、福祉の面でも良くなることですし、町内業者もそれだけ仕事が入れば

少しは潤ってくると。

今、仕事がない、仕事がないと四苦八苦されていますが、そこにも効果が出て来る。税金にも効果が出る、町の施策も進んでいくということから言えば、この住宅リフォーム助成制度を実施することによって、いろいろな波及効果が出て来るわけです。

そういう意味で、早急にこの制度を実施して頂きたいと思いますが、町長の考えをお願いいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

先に結論を述べればよかったのですが、議員がおっしゃっていますように、やり方としては地域振興券の１００万円を買って頂くと１１０万円の分のリフォームが出来るとかというやり方など、いろいろなことは宇田川議員のお知恵もお借りしたいなと思っております。

これは議員からこの質問状が出た時点で、７日に担当課の方には来年度からこれはやるよということで、基本方針は担当課の方に指示をいたしています。

ただ、予算面に係わることでありますので、一応上限予算をある程度決めて、そして我が町でも２５年度から実施したいという方向でやっていきたいと思っておる次第でございます。

以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川 亮君。

○１１番 宇田川 亮君

これは１０数年聞き続けて、初めて前向きの回答を頂いたもので逆にびっくりしています。

分かりました。是非先程言いました主旨を理解して頂いた上で実施に踏み切ることですから、これは全国的に示された効果が抜群ということは実証済みですので、これを守り育て、また町の施策も進むような形で、是非進めて頂きたいと思います。

前向きな回答を頂きましたので次の質問にいきます。

次にＴＰＰ交渉参加についてお尋ねします。

安倍首相はＴＰＰ（環太平洋経済連携協定）交渉参加に積極姿勢を示しています。しかし、この交渉に参加すると、現在交渉を行っている９カ国が合意しない限り、抜けられない仕組みになっています。

参加するにあたり、現在９カ国が合意している分は全て受け入れて、拒否権も許さないという条件まで付けられています。ですから、安倍首相が言うように聖域を設けて、国益を損なわない範囲での参加などはありません。ＴＰＰ交渉に参加すること自体、農業だけでなく金融や保険制度、医療も含めた労働者の移動など、日本は深刻な打撃を受けることになります。

鞍手町議会としても、ＴＰＰ交渉参加に反対する意見書を可決しており、町民あげた交渉参加反対の集会も行われています。

前柴田町長も反対の意思を示しておられました。徳島町長は所信表明の中で、ＴＰＰ参加問題については様々な論議がありますが、農業の未来を切り開き成長力を強化するためには、民間活力の導入等を視野に入れながら、攻めの姿勢で国際戦略の構築と国内農業の体質強化に向けた取り組みが必要である。このことから、付加価値の高い鞍手ブランド作物の開発と、流通ルートの改革を図り、農業基盤の安定と振興を図っていく考えと言われました。

一般に農業といっても、鞍手ブランドといったら、イコールぶどうというふうを考えるわけですが、それ以外のことも町長は考えているかも知れませんが、鞍手は農業が中心であります。ぶどうだけではない、何かしらブランドを設けないと出来ないというようなことでは、今、食料自給率も４０％を切って、なかなか大変な時期でもあります。ここでＴＰＰ交渉に参加すれば鞍手町も本当に大打撃を受けるということになると思います。

こういった対応も必要かも知れませんが、その前にＴＰＰ交渉に参加反対の意思と行動を行って頂きたいというふうに思いますが、町長の考えをお尋ねします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

所信表明でも述べましたとおり、本町の主要産業は農業でありますので、私としましても前町長の意思を引き継いで農業を守る立場に立って反対の意思を行っていきたいと思っております。

ＴＰＰは、ここで参加するしないを決める権限はございません。国会で決められます。この鞍手町といたしましては、仮にどちらに転んでも、農業生産者をしっかり支えていくという基本的な姿勢は、皆様方にお示しをしておかなければいけないと思っております。

ブランド米の件ですが、ぶどう、イチゴ等色々ございます。今回町のキャッチコピーを昨年度から募集をされていたみたいで、そのキャッチコピーが「ふっくらくらて」というキャッチコピーに決まりました。

例えば、鞍手産のお米を「ふっくらくらて米」というようなブランドとして全国に広めていきたいなど。広める考え方としては、例えばフェイスブックを使ったりとか、いろいろなソーシャルネットワークを使って全国に広めて行く方法もしかり。もう一つは、今担当課にも私が就任いたしまして申しましたことは、ふるさと納税をして頂いた方に、例えば鞍手の生産物のイチゴとか、たまご、レンコン、今言いました「ふっくらくらて米」とか、いろいろな農作物、若しくは鞍手で作っていますワインとか、そういったものをお返しとして全国にそれをお届けすると。

お届けするに当たって、注文書等を一緒に添えて送れば、返り注文もひよっとすればあるかも知れないということで、そういったいろいろなことを駆使して全国に広めていきたいと思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川 亮君。

○11番 宇田川 亮君

勿論鞍手町の農業を支えていくという町長の考え方については私も大賛成ですし、そのやり方についても様々あると思いますが、是非前向きに頑張って頂きたいと思います。

ただ、町長先程T P P交渉参加反対の意思は表明されましたが、国の決めることだからといって指をくわえて見ているわけにも行かないと思います。いろいろな努力をしても、交渉参加をすることによっていろいろな安い農作物が入って来て、大打撃を受けることは間違いないわけで、新たに聖域を設けて農作物は守るとしても、これはある一定期間すれば、今9カ国で合意していることは拒否出来ませんから、そこは守れないというのが結論ですよ。

ですから、交渉参加するまでに反対表明というか、ことある毎にどこかに言っていくどうか、鞍手でも町民上げての反対集会をやったりとか、本当に切羽詰まった問題でもありますし、是非いろいろなところで町長も参加しないような方向で努力して頂きたいというふうに思います。この点についてもう一度答弁をお願いいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

いろいろな町団体の方とご相談を申し上げて、その方向で行っていきたいと思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

以上で宇田川亮君の質問を終了します。

次に、1番議員 熊井照明君の質問を許可します。

熊井 照明君。

○1番 熊井 照明君

通告に基づきまして一般質問をさせていただきます。

まず初めに、国民健康保険被保険者証の個人カードについてであります。

被保険者証のカード化につきましては、国民健康保険法施行規則において平成13年4月以降、原則として1人1枚のカード様式とすることとされているところでありますが、附則におきまして保険者の財政状況などを考慮し、当分の間従来の世帯単位の被保険者証を交付することが認められているところであります。

しかし、同規則改正を受けました平成13年2月14日付け、厚生労働省の保険局長通知では、被保険者証のカードにつきましては、準備の整った保険者から順次交付することとされており、平成13年から既に11年以上が経過しています。

個人カードにつきましては、福岡県内の実施状況を調べてみますと、平成22年の9月末時点では、60の保険者中7保険者が実施をしている状況でありましたが、平成24年6月1日現在では、60の保険者中32の保険者が実施しているとのことであります。県内の半分以上の自治体が実施をしています。

国民健康保険に加入すると、被保険者証は世帯主である者に交付され、家族の者は世帯員

として2面に記載をされます。1人が病院に行くときは、その都度被保険者証を預からなければなりません。また旅行や子どもが遠方に行くときは保険証をコピーして持って行かなければならず、不便であると考えています。

共済保険証は既にカード化されています。組合保険や社会保険もカード化されているところが多いと聞いています。

被保険者証を個人カード化することによって、家族1人1人に1枚の保険証が交付され、小型化され常時携帯出来ることや、家族同士で保険証の貸し借りがなくなり、被保険者等の利便性の向上が図られると考えます。

また遠隔地等の特別扱いが不用になる等のメリットがある反面、カード化によって被保険者証の文字が小さくなり、見えづらくなること、また紛失に伴う再交付の問題があること等、認識はしていますが、カード化につきまして本町の平成13年度からの取り組みについて伺いをいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

1番目の被保険者証の個人カード化に対する取り組みの経緯ですが、これは課長に答弁させてよろしいでしょうか。

○議長 川野 高實君

長友保険健康課長。

○保険健康課長 長友 浩一君

町長に代わりましてお答えいたします。

先程の質問者のご指摘のとおり、被保険者証の個人カード化につきましては、平成13年に国民健康保険法の施行規則の改正によりまして被保険者証のカード化、いわゆる1人1枚化に変更することになりました。

本町では被保険者証を世帯単位で交付する従来の方法から変更するため検討いたしましたが、コスト面の問題もありまして、近隣の導入の状況を伺ってきたという状況であります。

○議長 川野 高實君

熊井 照明君。

○1番 熊井 照明君

本町の国民健康保険の特別会計は厳しいことは重々理解していますが、ただ、今言いましたように、カード化してきている自治体が半数以上あります。

では次の質問ですが、どの程度の費用が掛かると見積もられているのかをお尋ねいたします。

○議長 川野 高實君

保険健康課長。

○保険健康課長 長友 浩一君

お答えいたします。

カード化には初期のシステム改修の費用としまして約 80 万円。カードの用紙代が毎年 64 万円掛る計算となっています。以上です。

○議長 川野 高實君

熊井 照明君。

○1 番 熊井 照明君

じゃあ 80 万円と 64 万、144 万円で毎年 64 万円ぐらい掛かるということですね。

この金額であれば実施出来るのではないかと思います、その辺はどうでしょうか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

3 番目の熊井議員の今後の方向性と実施時期の見通しに当たろうかと思いますが、この答弁ということによろしいでしょうか。

要は、今うちの課長が申しましたように、今現在、現行では紙代等で 10 万 3 千円程掛かっています。それをカード化にすると 64 万 6 千円でプラスマイナス 54 万 3 千円の増になるということであります。

結論から申しますと、カード化をやるということで 25 年度に準備させて頂いて、26 年度から実施をしたいというふうに、結論から申しますとっております。それは担当課の方に私は、熊井議員からこの質問状を頂いて、直ぐに指示を出しました。

要は毎月ランニングコストとしてプラス 54 万 3 千円の 12 ヶ月分が増えるということになります。ですが今回カード化に伴って私が考えているのは、出来ればこの保険証が本人の身分証明書にもなるように、出来れば写真を添付したような形にしたいなというふうに思っております。

なぜかと申しますと、今の現行の保険証では、町内であればこの方が本人だと分かると思いますが、町外に保険証を持っていった場合に、同じ年齢の方が持っていった場合に、確認のしようがないのです。ということは、これはあくまで推測ですが、ひょっとすると国民健康保険が、ないとは思いますが、流用されている可能性が無きにしも非ずということも考えられるのです。

ただでさえ平成 24 年度ですか 9600 万円の国保の赤字が出ています。今回このランニングコストが約 600 万ちょっとになりますが、ごめんなさい年間 54 万円ぐらいの増になります。ですがこの分は、今私が申しましたように、もし不正があっていて、これがこのカードによってそれが防げるようなところになれば、逆に 54 万円以上のメリットが出て来るのではないかなと思っております。これは 25 年度で段取りをさせて頂いて、26 年度から実施をしたいと思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

熊井 照明君。

○1 番 熊井 照明君

26年度から実施ということで、有り難く考えています。ただカードに写真を付けるとなりますと、皆さん役場に来てもらって写真を撮るとか、ちょっと膨大な時間と経費も掛かると思いますが、ICカードとかプラスチックカードとか、簡易型カードとかいろいろありますが、一番いいのはプラスチックカードがいいのではないかなと私は考えていますので、より良い方向でいいカードを作って頂きたいと思います。

では次の質問に移らせて頂きます。

町税のコンビニ収納導入についての検討の進捗状況についてお尋ねをいたします。行財政改革の中の1つに、平成27年度の税徴収状況で福岡県内ベスト5を達成するという項目があります。具体的実施内容の1つに、納税機会の拡大検討があり、コンビニ収納またはクレジットカード収納の導入検討が書いています。

鞍手町のコンビニが増えています。金融機関まで行かなくても書籍等の支払いもコンビニで出来ます。時間、曜日に関係なく納付出来る環境は、納税者にとっては飛躍的なサービス向上に繋がると考えています。

また収納側からすれば、近くに町指定の金融機関がないとか、忙しくて日中納めに行くことが出来ない等の声がなくなると思います。固定資産税につきましても、町外や県外に送付している件数も少なくはないと思っております。

また住民税についても、転出等をされれば町指定の金融機関や収納代理機関があるとは限りません。コンビニで税金が納付出来れば納期内納付も増え、自主財源が増えると思います。ただ徴収努力をしていることは十分理解はしています。

ただ町税の徴収率は平成23年度と22年度を比較しますと、全体では2.29ポイント上回ってはおります。ただ税目別の現年滞納別に比較しますとマイナスの状況になっています。

滞納の収入合計も平成22年度は4140万円、平成23年度は2497万5千円、23年度が約40%の減となっています。

納税者の納付機会を増やし、利便性向上や住民サービス向上対策の視点から、早期に実施すべきと考えていますが、コンビニでの町税収入導入の検討の進捗状況をお尋ねいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

コンビニ収納の導入については、第5次鞍手町行財政改革プランで納税者の利便性向上のため、納付手段の拡大を図ることが決定されていると聞いています。これを受け平成26年4月からの導入に向けて準備をしている段階でございます。以上でございます。

○議長 川野 高實君

熊井 照明君。

○1 番 熊井 照明君

26年の4月から実施ということでもいいのですね。ただ1つ気になるのは平成23年の9月までに導入の可否を決定し、導入の場合は24年度よりと最初は計画をされていたと思います。それが平成24年12月までに導入可否決定と変更になったと思いますが、ここら辺の延びた理由というのが分かれば教えて頂きたいと思います。

○議長 川野 高實君

副町長。

○副町長 本松 吉憲君

代わってお答えいたします。

行財政改革で大体実施年度見込みで計上しています。ただコンビニの収納につきましては、これまで財政問題も特にあったのですが、メリット、デメリット、この辺の効果、いわゆる費用対効果を十分見極めたいという部分で、ちょっと議論が長引いています。

今回利便性の向上という観点から、これは住民福祉の向上という観点から実施しようということになっています。

一応準備が出来た段階で、ご存じのように行革の場合は調整会議を踏まえて、本部会議を開いて、そしてその上で町長が決定という段取りで進めたいと思っておりますので、準備が出来次第そういった流れで進めていきたいと思っております。以上です。

○議長 川野 高實君

熊井 照明君。

○1番 熊井 照明君

では、平成26年の4月から実施ということで認識していていいのですね、分かりました。1年でも早くコンビニ収納をしてもらえば、納期内納付、自主財源も増えると私は考えています。

次の質問に移らせて頂きます。

高齢者福祉対策についてであります。高齢者の福祉の増進を図るため、はり・きゅう施術費補助券を交付する考えはということで質問をさせていただきます。

近隣では宮若市、岡垣町、直方市、中間市など、福岡県内の多くの自治体が国保被保険者や後期高齢者を対象として、はり・きゅうの施術に対する助成をしています。対象疾患につきましては、末梢神経疾患及び運動器疾患に限るとされているところもありますし、助成金額や回数については自治体によってそれぞれ違いがあります。

市町村の共済組合でも、はり・きゅう施術料に対する助成制度があります。はり・きゅう施術を受けることによって、高齢者の健康の保持、福祉の増進に繋げ、地域社会を安心して暮らせるようにするため、高齢者福祉対策として鞍手町でも、はり・きゅう施術に対する補助券を交付する考えはありませんかということで、町長の考え方をお聞かせ下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

現在、直方市や宮若市におきましては、国民健康保険被保険者と後期高齢者医療被保険者を対象に、末梢神経疾患及び運動器疾患の市民に対しては、はり・きゅう施術費の受診券を交付していると聞いています。ただ対象者が国民健康保険並びに後期高齢者医療の保険事業の一環として取り組まれていることから、他の医療保険の被保険者はどうするかという公平性が保てるのかという問題もあります。

また本町の国民健康保険事業特別会計は、先程も申しましたが累積赤字を抱えています。赤字解消が大きな課題となっているところでもありますから、この受診券を出すことによって国保会計がいかげなものかなという、懸念される部分が残っています。

今、議員がおっしゃいましたように、やらないとは考えていません。ただこういった色々な予算面もございますので、もう少し私も勉強させて頂いて、慎重に検討いたしたいなと思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

熊井 照明君。

○1番 熊井 照明君

今回、国民健康保険被保険者、後期高齢者ということで上げていますが、自治体によっては町民全体を対象にしているところもあります。そういうところもありますので、国民健康保険の特別会計が厳しい状況であることは、私も重々理解はしています。

これは国民健康保険ではなく、一般の福祉の方で町民を全体としてとなると金額的にも増えるとは思いますが、こういうはり・きゅう施術費に対する補助券を出している自治体は、県内でも数多くあります。ただ以前は60歳以上1500円であったのが、行財政改革か何か知りませんが、65歳以上で1回の補助券が1000円に下がった。年齢は上がって補助金下がったということも実際にあります。

高齢者福祉の対策費としてこういう、はり・きゅうに対する補助券も前向きに検討して頂きたいことを要望いたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長 川野 高實君

以上で熊井照明君の質問を終了します。

次に、5番議員 田中 二三輝君の質問を許可します。

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

通告書に従いまして一般質問を行います。

本日は、町施設の防火設備について一般質問を行います。

質問に入ります前に、少々お時間を頂きたいと思います。

今日3月11日は東日本大震災が発生した日です。あの日、テレビから流れて来た映像は目を疑うものでした。2年という時間が経過いたしました。被災地では未だ復旧・復興とは程遠い状態と聞き及んでいます。東日本大震災で尊い命を奪われた犠牲者の方々に哀悼の意を表したいと思います。

また被災地の復旧・復興は日本の力を世界に示すものであると信じます。微力ではありますが、東日本大震災の記憶を改めて刻み、これからも県、国に対し強く要望する活動を行って行きたいと考えています。

皆様、どうか東日本大震災のこと、被災地のことを、どうか忘れないでいて頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは質問に入ります。

国政におきましては、昨年12月に3年3ヵ月ぶりに政権が変わりました。本町におきましても昨年暮れから本年1月にかけて、大きく町政が変化したと思っております。

しかし新町長の所信表明は、この3月定例議会の初日の冒頭に行われたことから、内容を精査し通告書を作成することが出来ず、今回の一般質問でその内容と、新町長が目指す町の将来像を精査することが出来ず残念に思っております。この件につきましては、次回以降行なっていきたいと思っております。

さて、2月23日に鞍手町内で発生した学校火災は、多くの方々に多大なご迷惑をおかけしたものと存じます。町議として町政に係わる者として、関係各位に私からもお詫びを申し上げます。

この火災は、休日の学校から出火したということから、大変大きなショックを与えたと思います。また同時に、本町の施設管理に大きな問題点があるというふうにも受け止めています。

そこで、本町が管理している教育施設及び児童福祉施設は、小学校が6校、中学校2校、高校1校、保育所3箇所というふうに把握をしています。

これらの火災訓練について、どのような形で実施しているのかをお答え下さい。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

小学校、中学校、高校及び保育所の火災訓練の実施状況についてお答えいたします。

小学校、中学校 高等学校の火災訓練につきましては、定期的な防火・防災を含む総合訓練を年2回実施しています。

また公立、私立保育所につきましては、毎月火災や地震等に備えて避難訓練を実施しています。更に年1回、直轄広域消防に依頼して総合訓練を実施しています。以上です。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

教育施設及び児童福祉施設の火災訓練等の実施状況については今お答え頂きました。それでは、それ以外の町施設に関してはどのような状況でございますか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

平成24年度中の防災訓練の状況についてご説明いたします。

総合福祉センターで昨年2回、6月と9月におこなっています。中央公民館の方で本年2月の7日に1回、町立病院と老健施設では、昨年6月と9月に2回行っております。役場の方では、消防設備点検等は2回行っておりますが、防火訓練は実施していません。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

それぞれの教育関係、若しくは町の管理している施設ということでの実施状況ということは答えていただきましたが、その内容的なものというのは、例えば生徒が参加しているのかとか、利用者の方の避難誘導ということについてはどのような取り扱いをされているのか教えて頂きたいと思います。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

学校関係につきましてお答えいたします。年2回の訓練でございますが、避難訓練、非常ベルを鳴らして運動場に集合。1回は直轄消防にお願いして専門的な指導を受けるといった訓練をやっています。

なお、学校そのものは防火管理者、或いは防災の予防といったものについて、組織的に取り組んでいます。管理責任者は教頭または主幹教諭、総責任者は校長でございますが、それぞれの先生方、火元責任者等も割り当てて、非常に防災関係、防火関係については点検を毎年やっているところでございます。以上です。

○議長 川野 高實君

福祉人権課長。

○福祉人権課長 鯨坂 健二君

公立保育所、私立の保育所についてですが、毎月地震等に備えての職員と児童による全員で避難訓練を実施しています。

年1回の直方鞍手広域消防に依頼しての分につきましても、同じく火災訓練を実施しています。以上です。

○議長 川野 高實君

病院局長。

○町立病院事務局長 中野 眞路君

お答えいたします。

病院と老健施設につきましては、患者さんを一緒に避難誘導をしていると。危険の順番等をして、救護介護まで行っているということでございます。以上です。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

火災訓練等々につきましては、そこに通学、通園している児童生徒の安全確保。病院関係では当然外来患者さんや、入院患者の安全確保、その他の町施設においては利用者の安全確保と、これが最優先に行われているということは容易に理解出来ることだと思っております。

その避難訓練並びに消火訓練、若しくは防災訓練というものにつきましては、自衛隊や警察、消防関係者が日頃から訓練をしていることの目的は、問題に直面したとき適切な判断と行動が出来るため、常に行っていると聞いていますし、また訓練によってより勇気を養っていると聞いたことがございます。

避難においては、誘導されるべき方の年齢により大きな困難の違いがあるとも聞いています。中学校と保育所では明らかにその教職員の方や保育士にかかる負担は違うであろうということは容易に推測が出来ると思います。

保育所におきましては大きめの台車を用意し、子ども達が安全に早く、一度に連れ出すことが出来る工夫も必要ではないかなと思います。各施設で必要なものなどを訓練によって把握するというのも大切なことではないかなと思っております。

また、関係機関に適切な指導を受け、避難、火災を含めた総合的な訓練をする必要があるというふうに考えています。

現在行っている訓練の内容が十分に、それに対応したものと言えるのかどうか、その辺をどのようにお考えなのか、町長もう一度その辺についてお答え下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

もう一度精査をいたしまして、検証した上で行なっていきたいと考えています。

以上でございます。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

是非そういう適切な指導を頂いて、より効果のある避難訓練、若しくは消火訓練等を行って頂きたいと思っておりますので強く要望しておきます。

次に、火災のあった室木小学校の校舎を、現在そのまま使用していると聞いていますが、火災に伴う、そのような判断をされたのはどのような理由からなのかを教えて頂きたいと思えます。

特に火災に伴う有害物質等々の検査等は行われたのかどうか、その辺を教えて下さい。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

お答えいたします。

火災に伴う有害物質の安全確認につきましては、科学的な検査は行っていないですが、火災鎮火後、早い時期に消失した残骸を取り除いたことや、授業等で使用している1階と3階部分は防火扉が作動したことにより、煤に覆われることはありませんでした。

また煤に覆われた2階部分は児童や教員の立ち入りを禁止し、早急にハウスクリーニングを実施しています。その結果、煤の臭い等はなくなり、定期的に換気を行っていますので問題はないと考えています。

校舎の強度につきましては、焼失した教室の壁、床、廊下、3階のコンピューター室において、コンクリートの強度テストを実施した結果、校舎の強度に問題はありませんでした。

以上ご報告します。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

実は、次はコンクリート構造上、熱の関係で強度検査を行ったのかも伺いしようかと思っておりましたが、今強度検査も行ったということでございます。

有害物質の科学的な検査ということにつきましては、私の方もインターネット等でいろいろ検索をいたしました。近隣に適切なそういう検査をする機関がヒットしなかったということで、そういう検査をする機関がないのかなと思っておりましたが、そういうふうな検査をしようという気持ちがあったのかなかったのか、そこを教えてください。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

火災発生時につきましては、おそらくCO₂、一酸化炭素、或いは最近では石油製品が多ございますので、塩素系の化合物有毒な部分が出て来るかと思えます。或いはアンモニア等、シアン化物等の有毒な物質が発生すると言われていたと思いますが、こういうことも考慮しまして、火災鎮火後、先程ご説明申し上げましたが、早急に残骸、或いは子ども達を通る3階まで上る通路を徹底的に清掃いたしました。煤等の後がないようにきちんとやりまして、2階も残った部分は一切立ち入り禁止と。業者以外は入れない。

朝、児童が登校する前、3階の教室は窓を開けて全部換気をして、そして入れるという心掛けをしていますし、また煤以外の有毒な物は考えられないということで、消防等にも有毒ガスの発生、その他の検査があるのかどうか確かめましたら、消防等はそういう義務はないということでございます。

後、児童達の健康管理に異常があれば、直ちに報告をするようにという指導もしていますし、25日月曜日から学校が始まったわけですが、児童達には火災の跡が見えないような形、残骸を一切撤去して、残りの撤去出来ない部分はブルーシートで覆って、見えないようにして安全面の完全な予防は図ったつもりでございます。以上です。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

確かに、おっしゃるとおり2階部分の廊下の煤といいますか、廊下や窓、天井等というのは非常に多くの煤に紛れていると私も記憶していますし、次の日はかなりの臭いがしていたというふうにも記憶しています。

そこで心配していたのですが、早速ハウスクリーニングを入れたということでございますが、そのクリーニング作業は既に完了したと理解してよろしいのでしょうか。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

作業手順からしますと、まず燃えた後、2階の煤が付いた天井部分は全部はついています。壁等につきましのクリーニングは既に終わっています。そういう部分が終わらないと次の作業に入れないという状況でございましたので、ハウスクリーニングは急いで終わっています。以上です。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

そうしますと、2階部分のクリーニング作業は終わったと理解させていただきます。

先程、3階の壁、床、廊下等の強度テストをされたということでございますが、確か室木小学校は鉄筋コンクリートだと把握していますが、当然そのコンクリート構造等々は熱に弱いということは明らかなことだと思いますし、熱伝動ということから、コンクリートと鉄との間にそれぞれの差が出て、冷えた時にコンクリートと鉄筋の間に隙間が出るというふうなことから、強度が落ちて劣化が進んで行くと私の方も理解をしています。

そういうことをきちっと考えた中での適切な強度テストというふうに把握をさせていただきたいと思いますが、そのような手順を踏まれたのかどうかもう一度お答え下さい。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

回答の中でコンクリートの強度テストを実施したと簡単に申しましたが、専門的な検査をしています。名前はシュミットハンマーテストという形でございまして、コンクリートの強度がきちっと出るということで、熱により強度が弱まったという報告は受けていません。現状で大丈夫だということを受けています。以上です。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

では十分な強度確認も行ったということで、まず安全面を無視した状態で、現在室木小学

校を使っているわけではないよと。きちっとした安全確認をして、そういう手立てをして子ども達が今通学し、教育施設として、学校として利用しているというふうに判断されたというふうに理解してよろしいでしょうか。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

全くそのとおりでございます。以上です。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

それでは今後、今回の火災から室木小学校の方を復旧して行くというふうには思いますが、今回の火災で本来湿気のないところ、若しくは水の入らないであろうと想定されていた所に、かなりの消火に伴う水が入っているのではないかなと思います。その湿気によって、今後カビの発生というのも十分に検討しなければいけないのではないかなと思っております。

カビと言いましても、病気を発生させたり、アレルギーの原因となると言われています。こういう健康を害する恐れのあるカビの発生については、どのような検査方法や管理方法等々を行っていくのか教えて頂きたいと思います。また、その辺をご検討されているのかどうかも含めてお答え頂きたいと思います。

○議長 川野 高實君

教育課長。

○教育課長 筒井 英和君

お答えいたします。

只今教育長が答弁しました中にもハウスクリーニングというふうな形で言いました。2階の部分につきましては、天井の板を剥いでの補修も行っております。

後は1階部分につきましても、そういうふうなところで調査をして、必要があればハウスクリーニングを行っていくというようなことで対応したいと思っております。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

そうしますと、先程町執行部の方から述べられたハウスクリーニングというものの中には、そのような検査等々も確認をしながら行っていたと、そういう広い意味でのハウスクリーニングだというふうに理解をさせていただきます。

校舎の復旧工事が3月末には完了予定というふうに把握をさせて頂いています。そういうカビの発生等々というのは、水は下に流れますので1階の職員室、隣の部屋等々はかなり、次に日に水が漏れていた状態だと思っておりますし、天井だけでなく床面にも水が浸透している可能性もございます。ぜひ、十分に検査をし、確認をして適切な工事をして頂きたいと

いうことを強く要望いたします。

次の質問に移ります。

今回の火災で1つの教室が全焼という形でしたが、先日教育長から報告がありましたが、まず警備会社が火災の通報を受け、火災現場に到着するまで約13分、出火を確認して消防へ通報するまで約2分、その後10数分の後に消防が到着したというふうな報告の内容だったと記憶をしています。

この中で初期消火という行動が取られたのかどうか、これが非常に疑問に残るところでございます。そこで初期消火が行われたのかどうかを教えてください。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

当日は休日でございます、学校職員、児童も誰もいない、無人の中での火災の発生でございますので初期消火は出来ませんでした。以上です。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

初期消火がまず行われなかったということ。これは非常に重大な問題ではないかと思えます。まず初期消火が行われなかったこと、これは早急に強く改善するように要望したいと思います。町長はどのようにお感じになっていきますか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

議員のおっしゃることはよく理解出来ますが、但し火事というのは発生して、例えばそこに誰かいて火を消そうと思って、一生懸命したがゆえに命を落としたという逆のことも想定出来るかと思えます。今はビル等は防火シャッターが自動的に下りて来たりとか、いろいろな緊急対策自動設備などもありますので、そういったことを勘案しますと、今は警備会社にお問い合わせをしております。それを出来るだけ早く迅速に警備会社の方にもっと動いてくれという要請はいたしました。

今議員がおっしゃっていることは重々私も理解出来ますが、今の段階では警備会社にお問い合わせをしているというような状況でございます。以上でございます。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

町長、もう少し突っ込んで考えてもらいたいと思えます。例えば今回の火災は休日で良かったなというふうな声が出ています。内容を聞きますと、子ども達もいなかったし、あの程度の火災の規模で済んで本当に良かったなという声が多く聞かれます。

しかし逆に考えたら、平日の授業中に発火が起きていたら、おそらく火災にも、小火にもならなかったのではないかと私は思います。そして子ども達の多くの思い出が詰まった教室が全焼ということには、決してならなかったのではないかなと思います。

勿論私どもにも責任はあると思いますが、まず学校から用務員を解雇したことが、初期消火が出来なかった。僕はそこに原因があると思います。

第4次行財政改革プランのしわ寄せというふうに強く感じています。安全面に対しての担保をすることなしに、用務員を解雇したことによって初期消火が出来なかった。用務員さんがいたら初期消火が出来たのではないのでしょうか、そのようにも思います。大変大きな反省材料というふうに受け止めて頂きたいと私は思います。

これは学校に、子ども達が休日でいなかったから良かったというそんな問題ではないと思います。

町の施設というのは災害時の避難場所なのです。最も安全性が高いという場所であるというふうな必要性があるのではないのでしょうか。是非初期消火が出来ないことを真摯に受け止めて頂いて、学校関係だけでなく町施設全体に、もう一度火災が発生した時の防火設備を早急に見直して頂きたい。そうする必要があると私は強く感じっていますが、その辺について町長もう一度お答え下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

まず議員がおっしゃっていることは良く分かります。ですがもう一度全体を精査させて下さい。私もまだなりたてで、正直言って良くその辺のところの全体を把握していません。今おっしゃっていることは重々私も分かります。

それともう一つは、火災というのは、これは私の考えですが、我々素人が下手に近づかない方がいいと。物は焼けたって所詮物なのですよね。それよりも私は人命の方が大事ではないかというふうに考えています。

ですからまず避難をして下さいということに力を注ぐべきではないかなと、私個人的には思っておりますが、今田中議員がおっしゃっていることも一理あるかと思しますので、もう一度全体を精査して参りたいとそのように思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

町長の個人的な考え方はさておきまして、町の施設ですので、そして避難場所になっているということをまず十分に理解して頂きたい。その上で安全面の確保は機械的による改善と、人的な改善の2つの選択しかないと思います。

この辺をきちっと考慮頂いて、その方向性をまず出すということ。そしてその結果をどのような時期に出すのか、その辺をまず教えて下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

これは早急にやるべきだと思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

田中 二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

早急にやるというふうにおっしゃって頂きました。一時期国会でも近いうちにということで大変話題になりました。国会で近いうちにという、あのような話題にならないよう早急に結論を出して頂いて、方向性をお示し頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

予定している質問は以上でございますが、最後に今回の火災は大変大きな、ショックな出来事でした。

しかしながら、別の角度から私は地域の繋がり素晴らしさというものを経験させて頂きました。火災の次の日、子ども達に授業を受けさせるためにとの強い思いから、町職員、教職員、保護者が片付けに参加をするという話をお伺いいたしましたので、室木小学校に出向きました。

目にした光景は、保護者と多くの地域の方々が丁寧に、先程教育長からもお話がありましたが、廊下や階段を水洗いし、拭き上げ、本当に見違えるように、火災前よりも綺麗になったのではないかなと思うぐらい、綺麗な丁寧な作業をして頂いていた姿でございました。職員の方々とともに親しく、地域の方々は声を掛け合いながら作業を進められている。それは普段から学校授業に積極的に参加をし、その結果として自然と教職員の方々と地域の方々の会話が来ている、そのように強く感じました。

作業が終わった後は保護者が炊き出しをしていていました。しかし本当に感動いたしましたのは、地域の方々が炊き出しをして頂いていた、このことでございます。勿論保護者の方が作って頂いたおにぎり等々も美味しかったのですが、地域の方々が炊き出しをされた、それは懐かしい味がして本当に嬉しかったです。

このように子ども達のこと、そして学校のこと、室木小学校のことを大切にされているのだなと強く感じました。

子ども達と地域、学校と地域がしっかりと結び付いていることを実感させて頂きました。この地域の方々に、鞍手町として、町行政として、やはり私は感謝の気持ちを示して頂きたいと強く感じています。是非ご検討して頂きたいと思っております。

このことを一言お伝えいたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長 川野 高實君

以上で田中二三輝君の質問を終了します。

ここでしばらく休憩します。

休憩 14時09分

再開 14時19分

○議長 川野 高實君

会議を再開します。

引き続き一般質問を行います。

12番議員 岡崎 邦博君の質問を許可します。

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

通告に従いまして質問いたします。

25年度の当初予算にも計上されていますが、新中学校建設に係る事項についてお尋ねします。

当初専門学校跡地に建設すれば建設費用は12億から13億で済むとの説明でした。

24年度予算で校舎改築の実施設計委託料、土地建物の購入費等で約1億8千万円、委託料については残がありますが、1億8千万円、25年度当初予算案では校舎改修費や体育館、プール等の建設費に、工事監理委託料を加えて16億2千万円、今年度までで既に約18億円が掛かることになっています。なぜ大幅にこのように見通しが狂ったのか、その要因と中学校が完成するまでの建設費の総額をお尋ねしたいと思います。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

ご質問にお答えいたします。工事費が増額した理由については、プロポーザル方式で設計業者の選定を行い、設計者、学校現場、教育委員会でヒアリングを重ね、策定委員の意見も聞きながら、これまでより充実した教育環境の整備を行うことになりました。校舎改修については、多目的ホールの設置、障害生徒対策としてエレベータの設置、特別教室等を効率よく活用する配置としたことによる廊下や壁の新設、空調設備、太陽光発電設備の設置等が、当初予定額より建設費が増額した要因でございます。

体育館については、標準的な中学校体育館として予定額を見積もっていましたが、バスケットボール等の公式試合が十分に実施出来る広さのアリーナの確保、一階に卓球場、部室、二階に武道場の併設等学校現場の要望を取り入れたことや、校舎と体育館を繋ぐ渡り廊下の設置等が、当初予定額より建設費が増額した要因でございます。

校舎改修、屋内運動場、プール建設費の総額については約15億7千万円を計上しております。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

来年度には運動場、野球場の整備、下水道工事、その他の工事があるというように町の広

報紙に載っていますが、先程もお尋ねしましたが、開校までに建設費の総額についてはいくらになるのですか。

○議長 川野 高實君

教育課長。

○教育課長 筒井 英和君

建設費の総額ですが、先程言われました工事費と設計管理費とか諸々で約20億を見込んでおります。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

ここに24年2月からずっと6小学校に説明会に行きました。その説明会の時の質疑に対する内容が示されたものが教育委員会から配布をして頂いております。その中で教育長は6小学校の説明会の中で、例えば剣南小、新延小、古月小学校の保護者からの質問に対して、新校舎を建設すると20億から25億、専門学校を使うと12～3億程度と考えているというようなお答えでした。今お尋ねしましたら、プロポーザル方式で充実した整備をすることになったからということで、多目的ホール、エレベータ、廊下、太陽光等、空調等の整備をすることで予算が大幅に増額したというようなお答えでしたが、プロポーザル方式はいいとしても、今お答えになられたものでも、例えば太陽光を付けるかどうかは別にしても、空調とかエレベータとか多目的ホールとかは新しく中学校、または小中学校を作っているところであれば、必然として考えられてもおかしくない設備ではないかなと思います。

古い小中学校でも今は冷房を完備したり、新たに付けているところも見受けられます。そういうことからすれば当初からそういうものについては勘案して予算として考えておくべき施設ではないかなというふうに私は思います。

そういうものを住民の方、または策定委員会の中でもご説明をされて最終的な判断を仰ぐべきだというふうに考えていましたが、住民の方たち、また策定委員の方たちにしても当初の専門学校なら12～3億、新しく作れば20億から25億というような数字だけが頭に残って、それが大きな判断材料の1つになっているのではないかなというふうに思います。

プロポーザル方式で充実したということは良いことだとは思いますが、数字が大きく違ったことによって、ひょっとすれば住民の方たちも、また違った判断をする可能性もあるのです。

専門学校でも20億、新しく作っても20億から25億、それならもう少しコンパクトな中古の建物を使って17年も経っているのですが、中古の建物を使った学校よりも、ひょっとすれば新しい学校の方が良いという判断をされる方もあるのではないかなと思いますが、その辺はどうですか。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

ご指摘のように昨年の２月に６小学校区に説明に回りました。その時の概算につきましては、言われたとおりでございますが、その後両中学校に、やはり教育現場の意見も取り入れるように当初町長に申し立てまして、両中学校の合同で中学校統合整備検討委員会なるものを作りまして、どういう望ましいこれからの学校を作るのがよいのか検討を、その後やっていきまして、先程ご報告したようにいろいろと付帯事業が、工事が出てきたわけです。

従いまして総予算が膨らんでいったということです。当初からこの辺が出てくれば良かったのですが、そういうところが非常に機能的な学校を作る、将来の教育変化に柔軟に対応出来るような、そして教育効果を最大限上げるような学校をやっぱり作りたいということで、現場の意見を相当取り入れております。以上です。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○１２番 岡崎 邦博君

統合して新しい中学校を作るわけですから、言われたようなことは最初から考えておくべき話で、今答弁されたようなことが新たに加わったから予算が膨らんだということには、私はないというふうに思います。

次に進みます。２番目として専門学校の買収費については、２３年度予算で１億３千万円ということで買収する費用は決まっていますが、建物が約１億掛かるようになっています。その建物についての財源内訳を教えてください。それに後校舎改修費、体育館、武道館の新築費、野球場、運動場の整備費、下水道工事費等、それぞれの工事費用と、その財源内訳についてお尋ねします。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

ご質問の工事費用とその財源内容、内訳につきましては教育課長に答えさせます。

○議長 川野 高實君

教育課長。

○教育課長 筒井 英和君

お答えいたします。工事発注前でございますので、各施設の工事費用は公表出来ませんのでご理解をお願いしたいと思います。全体の工事費用と財源についてお答えをします。

工事費用は約１億８千万円を予定しています。財源内訳としまして国庫補助金が約２億７千万円、それから過疎債が約１億２千万円、その他地方債が約５千万円、一般財源が約２億４千万円で予定をしております。尚、学校買収費の１億３千万円については議会の議決を頂いております。内訳としましては国庫補助金が２億４千万円、それから過疎債が１億５千万円、それから一般財源が２千万円となっております。以上です。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

入札前だから個別の工事費についてはお答え出来ないということなのですが、少なくとも校舎改修費とか体育館、武道館、プールについては25年度で予算付けをされているわけですね。鞍手町は予定価格を公表しています。ですから恐らく工事、入札は5月にあるかどうか分かりませんが、そんなに時間があるわけでもありませんし、私自身としては細かい数字を聞くつもりもありません。出来れば例えば1億数千万とか、5千万円単位で良いわけです。4億とか4億5千万円とか、そういう大きな単位でいいですから工事費についてと、それぞれの財源内訳についても一度お尋ねします。

○議長 川野 高實君

副町長。

○副町長 本松 吉憲君

先に工事費の個別の金額をお知らせ出来ないということを申し上げましたのは、町では平成16年から予定価格の公表に踏み切っております。これは入札に当たって不正行為を防止するという観点から導入しまして、2年間試行期間をとっております。その後問題がないということで現在に至っております。それに当たって予定価格の公表について要綱を定めております。この中で現説時に公表するという形をとらせて頂いております。

もう1つは、金額を今申し上げますと、当然4月には価格の改正というのが毎年あっております。これも当然積算の見直しというのが出てきます。それと予定価格の設定に当たっては工期の調査、工事の内容の難易度、材料の汎用性、こういうものを含めて予定価格というものを最終的に町長が決定するという仕組みになっていますので、今言ったような要件で個別の事業費等については申し上げられないということであります。

今言われますように5千万円単位というふうに言われますと、今資料を持っておりますが、どの程度の範囲で言うべきかというのがありますので、ちょっとお時間を頂きたいと思えます。

○議長 川野 高實君

ここでしばらく休憩します。

休憩 14時35分

再開 14時36分

○議長 川野 高實君

会議を再開します。

町長。

○町長 徳島 眞次君

議員がおっしゃることは重々、心配なされていることは分かります。どのくらい掛かるのかなというご心配をなされていると思いますが、いかんせん、まだ入札前でもありますので、

それとまだ詳細なひらい出しも出てないようで、ちょっと金額の方は表に出すということは今いろいろ入札に当たっていろんな問題が生じるかと思いますので、その辺のところはこらえて頂けませんかね。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

分かりました。じゃあ国庫補助、過疎債、一般財源について実はこの金額を知りたいがための工事費なのですが、その国庫補助と過疎債、一般財源の内訳のパーセンテージ、例えば校舎の改築が3億なら3億掛かったと。3億掛かった内の国庫補助率が20%だったとか、30%だったとか、工事が何億かかったかわからないので、どのくらいの補助率になっているのか。過疎債がどれくらいの比率で、それぞれの建物の当初の改築に充てているのか。一般財源は何%くらいになっているのか。それについてお尋ねします。

○議長 川野 高實君

教育課長。

○教育課長 筒井 英和君

お答えします。割合ということでございますが、国庫補助金には限度額がありまして、実際に建設する校舎とか屋内運動場の工事費から国庫補助金を算出するわけではございません。国が決めました、例えば学級数とか、それに応じてその学校規模に応じて必要面積が決まっています。それを基に国庫補助金を算出してまいります。従いまして国庫補助金の限度額までしか充当出来ませんので、工事が大きくなると、その分不足する費用につきましては過疎債や一般財源を充てていくというような仕組みになっています。以上です。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

正しく今言われるとおりで、義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律というのがあります。その中で統合校舎等の新增築に関する国庫補助の対象となる校舎や体育館の面積を算定する方法というのがあります。その算定方法の中で資格面積というのがあって、その資格面積に対して1平米当たりいくら掛かると。そのいくら掛かるうちの鞍手町は過疎地域に指定されていますから、その55%が国庫補助になるというふうな算定になっています。

ですから学級数に応じる必要面積というのがありますが、それに対して保有面積、新築なら0なのですが、それを引いたのが先に言った資格面積ということになります。校舎が大きいと、今言われるように限度額が少なくなるのです。ですから改築する時も一般財源または過疎債がより以上必要になります。それを私は尋ねたかったのです。

今校舎にする建物は1万平米以上あります。必要とされるような面積はいくらですか。お尋ねします。

○議長 川野 高實君

教育課長。

○教育課長 筒井 英和君

資格面積については1138平米でございます。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

これに対して工事する、要するに1平米当たり何万円というのが掛かってくるのです。ですから国庫補助が少なくなります。国庫補助が少なくなれば今言いますように過疎債、一般財源が必要になります。北中の今の面積を考えても、策定委員会の中では北中の校舎の面積の1.7倍あるというような説明をされている時がありました。北中は私の子どもが通っている頃は1年から3年まで6学級ありました。6学級あってそれぞれの音楽室やいろいろちゃんと整備されていて、その1.7倍の校舎が本当に必要なのかどうか。開校時の27年度で生徒数が419名というふうになっています。クラスで言えば各学年3クラスになります。施設を充実するという事は非常に良いことですし、教育環境を整えるということは、私は必要なことだと思いますが、必要以上に校舎が広すぎるというお考えはありませんか。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

ご指摘のように専門学校跡地は大きな建物でございます。それを有効に活用して、生徒が生き生き過ごせるような生活空間を作りたいというのがあります。1つには普通教室と特別教室、今まで在り来りの特別教室ではなくて、この前申しましたように例えば理科室とか、家庭科教室とか昔からある分でございますが、今日グローバル化が非常に進んでおりますし、英語専門の教室とか、ヒアリング教室、そういう部分を設けてこれからの学校はそうなければいかんということで、あの広さでもそう有り余った広さではないと理解しております。

そういう意味であの建物を有効に使うということが願いでございます。以上です。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

先程資格面積のことを言いましたけれども、文科省が認めればそれも後20%の割増しして認めてくれるようになっています。ですから教育長が言われたような視聴覚室とか、特別教室、多目的室にしてもそうですが20%の割り増ししてもらえる中に入れることが出来るのではないかなと思うのです。それにしても私はちょっと広すぎるなど。例えば生徒が掃除するにしても全員でするのも大変だろうと。あの校庭の広さも掃除するのも大変ではないかというくらい広い学校になるのではないかと思います。ですから私としてはちょっと危惧するところがあります。

先に進みます。３番目として２５年度の中学校新入生の内、南中学校校区から北中に入学する生徒数が分かっているかとお尋ねします。

また、室木、西川、新延の各小学校の在校生で昨年から転校したとか、または転校を予定している児童がいるかどうかもお尋ねします。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

お答えします。２５年度中学校新入生の内、南中学校区から北中に入学する生徒数については６名でございます。鞍手北中学校に入学する理由として部活動が３名、これは南中にその部活動が無い。特別支援学級生１名で南中にその支援学級はございません。通学条件が２名。また、室木小、西川小、新延小、各小学校の在校生で昨年から転校した者はおりません。０です。転校を予定している児童も０人です。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○１２番 岡崎 邦博君

先程言いました中学校統合に関する説明会での資料ですが、この中でなぜ専門学校の場所なのかということで、Ｑ＆Ａとなっているのです。その中で北中もしくは南中への統合は吸収合併のような印象を与え、生徒の心理面を考えると別の場所が良いと思われまして冒頭に出ています。

しかし、今ご答弁頂きましたように、２７年度には統合されるということがあれば、新たな中学校ではなくても北中でも、クラブ活動や通学路の関係で５名の方、特別支援学級の方については無いからということですが、５名の方が北中に通学したいと変わられるわけです。ですからこの１番最初の吸収合併というような印象を与え生徒の心理面を考えると別の場所が良いと思われるということには当たらないと思うのです。

これはどなたがこういう風な考えを持たれたのか、保護者から聞かれたのか生徒さんなのか、どなたが思われたのですか、お尋ねします。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

心理的なものは学校統合というのは難しい問題がございまして、過去古月中学校と剣中学校が統合しました。昭和４５年私は当時中学校の教員でございました。その時にもどこにするかということで、剣中学校は大きいから向こうに行くと言ったら古月地区もの凄く反対しました。それで今の北中校舎跡になったわけです。それで落ち着いたわけです。そういう部分があるので吸収される、自分達の歴史が無くなるという感じが良くない。これは他町でも、宮若市でも同じ事です。今度宮若東中学校が来月４月からオープンしますが、光陵中と宮田中が対等に合併しているということで、新たな土地を探したわけです。その部分は子ども達

の心理、或いは保護者、地域の心理を大事にしなければならないと私は思っております。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

教育長が古月と剣中学校の統合の時に教員をされていたというお話も聞いていましたし、その当時苦労があったということも何度か教育長とお話させて頂いた中で聞いてはおりました。

ただ当時と違って今の中学生にしても保護者にしても、むしろそういうものよりもいかに教育環境が良いところが良いかということで、余り今の方達はそういうところに拘っていないのではないかと。特に現実的にこうやって5名、6名の方が北中でもクラブ活動が出来るならかわりたい、通学についてこちらの方が安全そうだから変わりたいという方もおられるわけです。ですから名前が鞍手中学校ということに決まりましたし、校章や校歌、その他もこれから決まっていくと思うのですが、例えば北中であっても南中であってもそういった抵抗は余りなくて、ひょっとすればこれは取り越し苦労であったのではという気がします。これが専門学校の場所が良かったという理由にもならないという気がしています。

それともう1つ転校をした方はいなかったということですが、昨年私が聞いたところでは室木小学校の女の子が1人変わって行ったと。これはご近所の方からの話でしたが、たぶん4年生だったと言っていたと思いますが、通学路、専門学校のところまで女の子を通わせるのは危ないので、この際家も変わるということで宗像の方に変更されたというお話を聞いております。ご近所の方のお話ですから正確な話かどうか分かりませんが、そういうお話があったものであります。別の方については統合の27年度まで様子を見るけれども、場合によっては変わるかもしれないという方もおられました。いずれにしても西川地区の方については、なかなかここは若い人は住みにくいよね。特に小学校もいつかは統合されるだろうし、新延小も西川小も室木小もそれぞれあるけれど、もしもどこかに統合されるようになったら学校に通うのにちょっと大変だという話も聞いています。

折角過疎債を沢山使って過疎にならないようにということで新中学校を造っていくのですが、場所によっては、それが限られた地域になるかもしれませんが、地域の過疎を進めて行くという可能性もあるのではと私は危惧しています。

最後になりますが、1番、2番、3番と尋ねてきましたが、改めて本当に専門学校跡地が新中学校を建設するのに最適な場所なのか、またメリットがあるのかについて改めてお尋ねしたいと思います。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

メリットがあるかどうかというお尋ねですが、お答えします。鞍手南中、鞍手北中のいずれかの統合は先程も言われましたが、吸収合併のような印象を与えると。生徒の心理面への

影響を考えると新たな場所に設置する必要があります。

次に両中学校は老朽化が進んでおり、数年後には耐用年数を経過します。校舎建て替えとなった場合は仮校舎の建設や、その期間の教育環境の確保等が必要で、教育に支障をきたす恐れがあります。また両中学校の設置場所に新たに建て替える場合は、補助金の対象になりません。新規の場所に学校を建設するには、用地取得や施設整備に多くの時間と費用が掛かり、統合までにどのくらいの時間が掛かるか全く予測が付きません。しかし専門学校の既存校舎は耐震基準で設計されており、改修を行うことで中学校として十分活用出来、学校教育の充実に向けた施設整備が比較的早い時期に完了することが出来ます。以上がメリットと考えております。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

私個人的にはいろいろな場所を思い浮かべることがありまして、例えば衛生センターの近くに太陽光発電所も入っていますが、1つの考えとしてはあったのです。幸か不幸かあそこは太陽光発電所になりました。別に北中の近くに分校跡地もありますし、考えようによってはいろいろなところにあると思いました。しかし専門学校跡地に今建設をしています。

ですから私は今度の当初予算に反対しようという思いは全くありません。もちろんこれで行くことでしょうからそれで良いと思います。しかしこの中学校がお荷物にならないかという危惧はしております。というのは先程お見せしました住民説明会の資料の中で10年後の平成37年に於ける中学生全体の生徒数は309人、20年後の平成47年の生徒数は238人と推計されております。生徒数が減れば先生の数も当然減ります。先生が減ってあの広さの学校を本当に管理出来るものかという心配も持っております。また学校に関係する地方交付税もクラスや生徒数に関係しますので、交付税も減ります。あの建物が建設されて先程も言いましたが17年経っていますので、後20年くらい経てばいろいろと傷みも出てくると思うのです。

校舎を修繕するとしても相当な費用が掛かると思いますし、草刈りをするにしても相当な面積があります。愛校作業で以前はしていた頃もありましたが、とてもちょっとやそっとでは出来ない広さがありますので、毎年維持管理費も掛かると思います。今後10年で町の人口は人口推計によれば1万5千人を恐らく切るでしょう。20年後には1万3千人を切ると推計されています。そうしますと財政基盤も小さくなってきます。私は広すぎると思いますが、広すぎる校舎や運動場、校庭の管理についても、私は大変な費用が掛かると思います。立派な中学校なのですが、この先30年、40年あの中学校を使うことになるのです。そのことを考えた時にあの広さで大丈夫かなと非常に心配をしております。

それで教育長にお尋ねするのですが、そのことについても心配ないということになれば構わないのですが、ご答弁頂きたいと思います。

○議長 川野 高實君

教育長。

○教育長 山本 喜久男君

高齢化が進んで少子化が進み、人口減が進んでおります。ご指摘のように日本全国今から20年後は1億人を割るだろうと言われております。しかしここ5年、現状をご説明申しますと、今南中の生徒は122名です。クラス数が今年は5学級でしたが、4月からは4学級か3学級になる可能性もあります。そうしますと今の生徒達はどうなのか、来年、再来年とここ4～5年の間、後10年を考えても良いと思いますが、必要な先生の配置がないのです。私は教育的見地から統合はやむを得ないということは、皆さんもご理解頂いております。南中を例にとると中学校の教科は家庭科などを入れた10教科あるのです。各学年1クラスずつ3学級になると校長や教頭を含めて授業をする先生はいくらか。4学級掛ける2で8名いるのです。2名は授業だけ教えによそから来る非常勤の先生なのです。学校としてあてになりません。もう1つは部活を持つ先生もいない、制限されます。1番成長盛りの子ども達に選択肢のないような教育は間違いだと思います。どんなに財政が逼迫していても。財政論から言ったらそれはしないが一番良い。しかし私は教育的見地から考えると時間的に余裕がない。今のうちに今の子ども達をそういった意味で子ども達には選択肢が限られているのです。南中で吹奏楽をしたいと言っても部がありません。サッカーがしたいと言ってもありません。しかし人間はどこでどういう技能を付けていくかということと成長期の今しかない。教育を私はそう捉えております。答えにはなりません。

これから20年先、30年先、このまま人口減が推移すると、それは困ったことになってますが、住宅誘致とかそれは政治の力だと思います。活性化していく鞍手町であってほしいという思いであります。

○議長 川野 高實君

岡崎 邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

中学校の統合については教育長とも何度もお話をしていますし、21年度にも一般質問の中で耐震化と統合ということで、耐震化する前に早く統合した方が良いのではという一般質問もさせて頂きました。私の中では小、中学校を同時に一緒に考えて進むべきではないかというお話もさせて頂いたと思います。ですから統合について何ら私はとやかく言うことは全くありません。ただ移転場所として、今のところがベストな場所なのかどうか、まだいろいろと考える余地があったのではと思っているのです。そうは言ってもどんどん先に進んでいきますので、今年度も16億円近くの予算が計上されていますし、それについても全く反対するつもりもありません。ただ先程言いましたように説明の中でも言われていた条件も随分違っていることもあります。住民の方達はまだ違ったままの情報でしか今はないのです。今の情報がない中で進んでいることになります。

最後の質問になりますが、徳島町長についてはこの新中学校の建設には何も係わっているわけでもありませんが、柴田前町長からいろいろとお話は聞いていたことはあったと思いま

す。専門学校跡地への移転を前町長は強く進めてはおりましたが、残念ながらお亡くなりになってしまいました。山本教育長も３月で退任されるということです。本当に残念なこととは思いますが、この事業を進めていました責任者の方、お二人共、完成を見ることなく関われなくなったということがあります。徳島町長に於かれては町長選の際に柴田町長が進めていた事業を継承しますと言われていました。それはそれで正しいことだろうと思います。ただ今日もご質問させて頂いた中で、詳しい事情を知って、中には最初に思っていたのとちょっと違うのではということがあれば、例えば予算が通ったとしてもちょっとそこで立ち止まるということも出来るのではと思います。立ち止まってじっくり違った観点から、また新しい発想で徳島町長なりの考えで、この新中学校の建設事業を見ることが出来るのではと思います。

中学校は１度造れば３０年、４０年という単位でそこに有り続けることになります。町長になって今日初めて聞いたことがあるかもしれませんし、また議会の判断が間違ふこともあります。私は先程も言いましたように当初予算に反対するつもりは全くありません。町長がもう少し慎重に時間を掛けて考えてみれば良かったかなと後悔しないように、将来に亘って町の利益になるのか、町民の利益になるのか、町民の意見をもう１度聞いて頂きながら執行権者としてのご判断を頂きたいと思いますが、いかがですか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

貴重な意見ありがとうございます。これを進めるに当たっては、２月の２０日でしたか住民の反対の署名を千数百名分持って来られました。反対の署名を集められた皆さん方のご努力と汗には本当に大変だっただろうなという思いがいたしております。そういった反対者がそれだけおられるということは私もしっかりと踏まえております。しかし昨年の議会でこれが通過したと聞いております。私は議会の中で民主的民意が反映されたとそのように理解しております。そしてまたこれを私がここで覆すということは議회를軽視した発言にもなりますし、もう１点は私が町長選挙に立候補した際に、柴田町長の事業を踏襲すると、合併についても行うということを公約に掲げて、私は民意を得て町長にならせて頂いたものと踏まえております。

今岡崎議員が縷々おっしゃっていたことは、今後進めて行く上で１つ１つ精査をしながら失敗の無いように行っていきたいと思っております。

○議長 川野 高實君

以上で岡崎 邦博君の質問を終了します。

次に２番議員 須山 由紀生君の質問を許可します。

須山 由紀生君。

○２番 須山 由紀生君

通告に従いまして質問をいたします。

障害者及び障害児支援について３点程ご質問をいたします。

最初に障害者に対しての基本的な考え方について質問をいたします。障害者の権利条約では障害のある児童と無い児童が共に平等であり、障害のある児童の人権を確保するための全ての必要な措置を取ることが明記されています。１人１人の子どもの有様を障害という概念で括る前に、個性や個人差として捉え、児童福祉法に於ける子ども施策の中で基本的には障害児の支援を位置付けるべきということについて、どう考えておられるのか町長の見解をお聞かせ下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

私は全ての人々が障害の有無に係わらず相互に人格と個性を尊重し合って、対等な立場で日常生活や社会生活を営むことが出来る社会を実現していくためには、社会的支援や公的支援がその前提として必要であると考えております。以上です。

○議長 川野 高實君

須山 由紀生君。

○２番 須山 由紀生君

大変素晴らしいコメントをありがとうございます。

次に障害児保育の状況です。鞍手町に於ける障害児保育の状況について質問をいたします。障害児の支援を考える場合、まず考えなければならないのが障害の有無に係わらず全ての児童が健全な環境で育つということが保障されなければならないということです。とりわけ障害児については早期発見、早期対応の視点に立って、健全に成長が出来るような環境を整えるための支援が鍵ではなかろうかと考えられます。その中でも母子保健や子育て支援、家族支援こういったものが非常に重要ではないでしょうか。乳幼児期から学齢期までの発達支援は親の支援を通してこの支援を行うことによって、特に知的障害や発達障害に於いては一次障害を軽減し二次障害の発生を予防することにもなると考えられております。また親の支援だけではなく、他の健常な子ども達と接することも健全な成長には必要だと思います。

このように障害児支援の充実と強化は、障害の有無に係わらず健全育成の視点を中心とする必要があると考えられます。特に今回は就学前の障害児、乳幼児の障害児保育について質問をします。

町内の公立、私立も含めて保育園での障害児保育の実態はどうなっているのか。また公立の場合の障害児の受け入れに対しての保育士の人数は足りているのか。この２点について質問をいたします。

○議長 川野 高實君

鯉坂福祉人権課長。

○福祉人権課長 鯉坂 健二君

町立保育所では身体障害児１名、知的障害児１名が通園しております。私立保育所に於き

ましては身体障害児 1 名が通園しております。また、公立保育所の保育士の人数についてですが、現時点では障害児を受け入れることになりまして保育士の人数は足りております。

○議長 川野 高實君

須山 由紀生君。

○2 番 須山 由紀生君

課長の答弁にありましたように鞍手町では障害児を持つご家庭が少なからず居られます。その中で公立の保育所は保育士の数が足りているということですが。

次にこれは私立の場合になってくるのですが、加配保育士及び保育料の状況について質問をいたします。現在当鞍手町でも就学前の障害児を持つご家庭が少なからず居られます。そしてその家庭のお母様方は子どもの支援に手が掛かり働きたくても働けない。働かなければ生活が出来ないのに働けない。また自営業の方にも凄く負担が掛かっていると思います。特に母子家庭のお母さんは 1 日中子どもに付きっきりで、とても働くなんて出来ないのでしょうか。障害児を持つお母様方が安心して働けるような障害児保育の充実を整え、どこの保育所でも安心して預けられるような体制をなお一層取るべきではないかと思います。そのためには受け入れる側も保育所の体制を充実させるのが課題かと思われます。中でも加配保育士の問題や保育料の問題が挙げられます。まず加配保育士の問題ですが、公立の場合は先程言われましたように保育士の人数は概ね足りているということですが、私立の場合は障害児を受け入れた場合、その時点で保育士を増員しなくてはなりません。近隣の他の自治体では加配保育士の制度がありますが、鞍手町では現在行われておりません。出来れば他の自治体同様、鞍手町でも加配保育士の制度を取り入れ障害児を受け入れやすい環境が出来るようにして頂くように私から提案を致します。この件について町の見解をお聞かせ下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

加配保育士の配置の支援ということなのですが、おそらく須山議員が言われているのはのぞみ保育園のことではないかと思われます。プライバシーがありますので名前は伏せておきますが、T ちゃんといいます。T ちゃんのお母さんが昨年 5 月に役場の方にご相談に来られたという経緯から現在に至るまでの状況を私は担当課を呼んで調査を致しました。これを読ませて頂く限りではこの 10 ヶ月間担当課は条例等を調べて県庁にも問い合わせをしたのでありますが、障害児の受け入れに対して施設改修をした場合の補助金はありませんが、加配をした保育士についての補助金はないということで無理ですという回答をしたと思います。それから時間が経ちまして 1 月にも来られたのですが、平行線のまま終わっているという状況を確認致しました。これを T ちゃんのお母さんが役場に約 10 ヶ月間ご相談に来られてなかなか先に進まない。そして T ちゃんは週に 3 日しか保育園に通えない、加配保育士がいなが故に週に 3 日間しか通えない。だけど本人は毎日保育園に行きたいということも伺っております。こういう状況でおそらく T ちゃんの親御さん、そしてご本人は悲しい、辛い、悔

しかっただろうと私はそのように思っております。こういうことに関しまして私は行政の長といたしまして、お詫びをしたいと思っております。本当に申し訳ございませんでした。

それから今後の対応ですが、予算面そして人的配置、つまり加配保育士などのあらゆる面を早急に、そして最善を尽くして対処するということをここでお約束したいと思います。

以上でございます。

○議長 川野 高實君

須山 由紀生君。

○2番 須山 由紀生君

どうもありがとうございます。

次に保育料の問題です。先だって頂いた資料を見ても分かりますように、近隣の遠賀町や中間市と比較しても若干所得税額の区分が違うところもありますが、鞍手町は全体的に見てもかなり保育料が高いようです。こういったところから見ても町外の保育園を希望される家庭がかなりあるのではと推測されます。町長の所信表明にもありますように鞍手町の将来を担う子ども達は鞍手町の宝であり、貴重な財産でもあります。この子ども達をより良い環境でのびのびと育てもらうためにも、誰もが預け易い保育環境を提供するのが我々の、また、鞍手町の努めではなかろうかと思えます。この件について町長の見解をお聞かせ下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

当然少子化対策というのは子どもを育てる時にお金が掛かり過ぎるというのが、私が議員当時ですから、10数年前からそういうことは思っていました。そういった面も勘案しまして将来的には公立保育園が今3つありますが、そういったところも統廃合を含めながら、そして財政面、経費の面もシェープアップしながら、逆にそういったシェープアップした分を預けられるお母様方の経費負担を軽減するという方向性でやって行きたいとそのように思っている次第であります。以上でございます。

○議長 川野 高實君

須山 由紀生君。

○2番 須山 由紀生君

今後の鞍手町の障害者支援や障害児保育に光が差すような非常に前向きな答弁を頂きまして本当にありがとうございます。

終わりになりますが、再度障害児を持つお母様方が安心して子育てが出来る安心安全な町政を確立して頂くことをお願いしまして私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長 川野 高實君

以上で須山 由紀生君の質問を終了します。

これですべての一般質問は終わりました。

この際休会についてお諮りします。明日12日を休会としたいと思います。これにご異議は

ありませんか。

(「なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって明日１２日を休会とすることに決定しました。

以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

散会 １５時２１分